

解答

□

問 1 声

問 2 読者が作品を注意深く読み理解するという能動的な行為があってはじめて、文学作品はその価値を十分に花開かせることができるということ。

問 3 どのように読む

問 4 ②（友達との出会いを大切にし友情を育んできた結果、）いまや自分にとってかけがえのない友達である

③ 「誰とつきあうべきか」を書いた本

④ 古典ギリシア・ローマの文人たちの言葉

⑪ 他者の言葉に敬意を払わず、自分の言葉もどうでもいいと思っていること

問 5 エ

問 6 価値

問 7 何を読むべきかを思いめぐらし判断を下すための助けとなるはずの「批評」が向きあうべき作品との距離を縮め思考を方向づけてしまうせいで、批評に気をとられ振り回されてしまい、かんじんの作品に目を向けられないこと。

問 8 イ

問 9 時間と手間をかけて吟味し熟慮した上で作品を評価し、それを正確に読者に伝えるために練り上げられた言葉で作品を批評すること。

問 10 I オ II ウ III ア

問 11 作品を愛しすぎたせいで作品との一体化の欲望が強まり、ただ作品の内容をくり返すだけの読者の思考や感情のない批評では、作品との「他者との出会い」が生まれるとは思えないから。

問 12 （他者の言葉を丸写しするくせに、）他者の言葉に対する敬意がまるでなく、他者が対象に傾けた労力と時間を想像すらせず、理解し自分のものにもしないで、思考する努力を面倒くさがり省略してしまうこと。

問 13 考える

問 14 真剣に本を読む、作品に向き合うというのは、読む側も作者の労苦に見合うだけの労苦を要求される面倒で消耗させられることであり、たしかに本を読むことは決して容易なことではないが、ムジールほど思考する努力を重ねてきたわけではないわれわれは、読み考えることを面倒がって遠ざけるべきではないということ。

問 15 われわれがまず行うべきこととして必要な「作品と一体になる」ことは、今まで述べてきた「作品との適切な距離を見つけることの重要性」とは理屈としては相反することであるとわかつてはいるが、同様に重要なことであると思っっているから。

問 16 自分自身の言葉のように

問 17 ⑬ 道……文学作品の主題にたどりつく方法や思考

⑭ 建物……作品を読みとるための手がかりとなる言葉

問 18 批評にまどわされることなく、自分自身で作品の価値をたしかめ、自分だけの理解や思考を深めていくこと（を求めている。）

□

1 祝賀

2 孝行

3 縮尺

4 加盟

5 公私

6 秒針

7 秘境

8 豊〔か〕

9 率〔いる〕

10 帯〔びる〕